

福井大学ライフサイエンス

イノベーションセンター

自己点検・評価報告書

(対象年度：平成28年度 ～ 令和3年度)

ライフサイエンスイノベーションセンター

令和5年1月

平成28年度～令和3年度におけるライフサイエンスイノベーションセンターの活動に関する自己点検・評価報告書

ライフサイエンスイノベーションセンター
センター長 安田 年博

この度、平成28年度～令和3年度（自己点検・評価対象期間）におけるライフサイエンスイノベーションセンター（以下、「ライフセンター」という）の活動に関する自己点検・評価を実施した。評価実施体制、自己点検・評価結果等は以下の通りである。

○評価実施体制

ライフセンター運営委員会委員は業務としてライフセンターの自己点検・評価を担当しており、研究・地域連携推進部研究推進課等と密接な連携のもと、福井大学部局等自己点検・評価及び外部評価実施要項（令和3年1月27日 学長裁定）に基づき、今回の自己点検・評価を実施した。自己点検・評価を担当した同委員は以下のようである。

【運営委員会委員】

委員長（センター長）	理事（教育、評価担当）	安田 年博
副センター長（研究）	医学系部門教授	深澤 有吾
副センター長（教育）	工学系部門教授	沖 昌也
副センター長（社会貢献）	医学系部門教授	飯野 哲
副センター長（社会貢献）	医学系部門教授	菊田 健一郎
委員	教育・人文社会系部門教授	保科 英人
委員	教育・人文社会系部門教授	山田 孝禎
委員	医学系部門准教授	濱野 忠則
委員	医学系部門准教授	飯田 礼子
委員	医学系部門助教	本田 信治
委員	工学系部門教授	藤田 聡
委員	基盤部門教授 産学官連携本部	米沢 晋
委員	基盤部門准教授 ライフサイエンス支援センター	徳永 暁憲

今回の自己点検・評価結果に基づき、「自己点検・評価報告書」を作成した。なお、報告書作成に当たり、多大なご協力を頂いた総務課秘書室三原理恵氏に深謝する。

○評価方法

福井大学部局等自己点検・評価及び外部評価実施要項に定められた各基準について、関連する根拠資料等に基づき自己点検し、次の3段階で評価した。

A：優れている

B：おおむね標準的である

C：改善が必要である

○自己点検・評価スケジュール

自己点検・評価は、令和4年10月から令和5年1月にわたり実施され、その結果はライフセンター運営委員会で承認された。

○自己点検・評価結果

自己点検・評価結果は、以下に、評価結果一覧として記載した。詳細は本文4頁以降を参照願いたい。

<評価結果一覧>

基 準		評 価
基準1：ライフセンターの設置目的		
1-1	設置目的が明確に定められており、その内容が本学の目的等に適合するものであること。	B
1-2	設置目的が、本学構成員に周知されているとともに、地域・社会に公表されていること。	B
1-3	設置目的及び活動が、本学の中期目標・計画の達成に資するものであること。	B
基準2：ライフセンターの組織（実施体制）		
2-1	組織構成が、設置目的にてらして適切なものであること。	A
2-2	設置目的を達成する上で必要な実施体制が適切に整備され、機能していること。	A
2-3	設置目的を達成する上で必要な構成員が適切に配置されていること。	B
基準3：活動状況と成果		
3-1	設置目的に沿った活動が、充分に行われていること。	A
3-2	設置目的の達成に資する成果・効果があがっていること。	A
3-3	本学の目的等の達成に資する成果・効果があがっていること。	A
3-4	本学の中期目標・計画の達成に資する成果・効果があがっていること。	A
3-5	活動状況及びその成果・効果が、学内及び地域・社会に対して公表されていること。	B
基準4：学生・研究者等の受け入れ、支援等		
4-1	設置目的に沿って、学生・研究者等を適切に受け入れていること。	該当無し
4-2	設置目的に沿った履修指導・研究指導を含め支援等が適切に実施され、成果・効果があがっていること。	A
基準5：施設・設備		
5-1	活動する上で必要な施設・設備が整備され、有効に活用されていること。	A
基準6：財務		
6-1	設置目的に沿った活動を適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有していること。	B

6 - 2	設置目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画が策定され、適切に履行されていること。	B
基準 7 : 管理運営		
7 - 1	設置目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備され、機能していること。	B
7 - 2	管理運営に関する方針が明確に定められ、それらに基づき適切な規定等が整備されていること。	B
7 - 3	活動の状況やその成果・効果が組織的に把握され、適切な形で管理運営に反映されていること。	A

目 次

	頁
I ライフサイエンスイノベーションセンターの現況、特徴及び沿革 ……	1
II 目 的 ……	3
III 基準ごとの自己点検・評価	
基準1 ライフセンターの設置目的 ……	4
基準2 ライフセンターの組織（実施体制） ……	10
基準3 活動状況と成果 ……	15
基準4 学生・研究者等の受け入れ、支援等 ……	30
基準5 施設・設備 ……	32
基準6 財務 ……	34
基準7 管理運営 ……	36
IV 根拠資料等 ……	別冊
【資料集】	
【別 添】	
・ライフサイエンスイノベーションセンター活動報告書 2016 年度	
・ライフサイエンスイノベーションセンター活動報告書 2017 年度	
・ライフサイエンスイノベーションセンター活動報告書 2018 年度	
・ライフサイエンスイノベーションセンター活動報告書 2019 年度	
・ライフサイエンスイノベーションセンター活動報告書 2020 年度	

*活動報告書 2021 年度は現在作成中

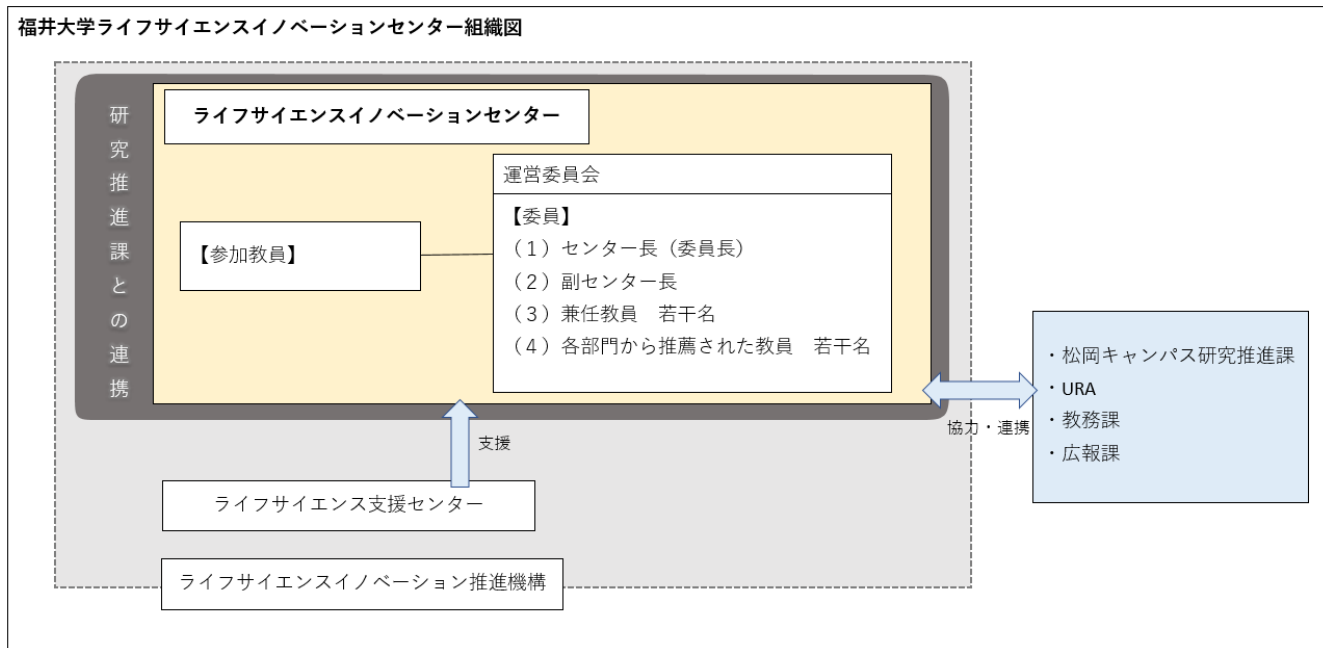
I ライフサイエンスイノベーションセンターの現況及び特徴

1 現況

(1) 部局名 ライフサイエンスイノベーションセンター

(2) 所在地 福井県福井市文京3丁目9-1

(3) 部局の構成



【運営委員会委員】（令和5年1月現在）

センター長	理事（教育、評価担当）	安田 年博
副センター長（研究）	医学系部門教授	深澤 有吾
副センター長（教育）	工学系部門教授	沖 昌也
副センター長（社会貢献）	医学系部門教授	飯野 哲
副センター長（社会貢献）	医学系部門教授	菊田 健一郎
委員	教育・人文社会系部門教授	保科 英人
委員	教育・人文社会系部門教授	山田 孝禎
委員	医学系部門准教授	濱野 忠則
委員	医学系部門准教授	飯田 礼子
委員	医学系部門助教	本田 信治
委員	工学系部門教授	藤田 聡
委員	基盤部門教授 産学官連携本部	米沢 晋
委員	基盤部門准教授 ライフサイエンス支援センター	徳永 暁憲

【センター参加教員】 170名（令和5年1月現在）

2 特 徴

【ミッション】

ライフサイエンスイノベーションセンター（以下、「ライフセンター」という。）は、次の3点をミッションとする学内共同教育研究組織である。

- （1）ライフサイエンス分野が関連する幅広い分野の研究の高い水準での実施（先端的ライフサイエンスの遂行）
- （2）ライフサイエンスを知る複合的なバックグラウンドをもつ人材の育成（大学院教育）
- （3）ライフサイエンスの生物・理科教育への還元（社会貢献および地域での人材育成）

【ライフセンターの構成】

ライフセンターは、専任教員を有しないセンターであり、学部・部門等の枠にとらわれることなく、ライフサイエンス及び関連する広い分野の研究・教育・社会貢献に關与する教員が学内より幅広く集結しており、本学教員であれば、希望によりセンター参加教員として活動できるという、独自の構成員制度をとっている。

ライフセンターの円滑な活動を図るため、管理・運営の中心となる運営委員会をライフセンターに設置している。ライフセンターは運営委員会を中心として管理・運営しており、事務的な支援体制である研究推進課、松岡キャンパス研究推進課、産学官連携本部URA、教務課や広報課などとの協力・連携の元、ミッションを実現するよう、広範囲な多岐にわたる活動を実施している。

【沿革】

平成20年11月に、本学におけるライフサイエンス研究・教育を、その応用・社会への還元をも視野に入れ、さらに推進するべく、旧生命科学複合研究教育センター、トランスレーショナルリサーチ推進センター、ライフサイエンス支援センターの3センターにて構成する「ライフサイエンスイノベーション推進機構」が設置された。

旧福井大学、福井医科大学の大学統合を期に設立された医工共研究交流推進特別委員会を母体とする旧生命科学複合センターは、学部の垣根を超えた、ライフサイエンス研究に加え、ライフサイエンス教育（主に、大学院教育）、さらには地域でのライフサイエンス啓蒙・社会貢献を主な目的として、平成17年4月に設立された。他方、平成20年11月に設置されたトランスレーショナルリサーチ推進センターでは、本学におけるライフサイエンス及び関連分野の活動において、臨床応用に向けた橋渡し研究の拠点としての役割を果たすとともに将来の先端医療、QOLの向上、健康増進に繋がる医療、健康科学などを含めた幅広い分野での応用的研究をすることを目的とした。ライフサイエンス研究の推進は本邦の国家戦略としての「科学技術基本計画」に沿うものであり、第5期科学技術基本計画（平成28～32年度）においても「世界最先端の医療技術の実現による健康長寿社会の形成」などとして重要政策課題にあげられている。本学においても、所属教員の多くがライフサイエンスに関連する分野の研究に取り組んでおり、このような背景のもとに、本学におけるライフサイエンス研究をさらに組織的に推進するため、平成28年4月に、旧生命科学複合研究教育センターとトランスレーショナルリサーチ推進センターが統合し、学内共同教育研究組織として福井大学ライフイノベーションセンターが設置された。

【歴代センター長】

平成31年4月 ～

安田 年博（理事/副学長）

平成28年4月 ～ 平成31年3月

上田 孝典（理事/副学長、現学長）

Ⅱ 目 的

ライフセンターでは、前述の三つのミッションを実現すべく、次の二つを主な目的としている。

1 本学においてライフサイエンス及び関連する広い分野での研究を高い水準で実施する。

ライフサイエンス研究やその関連分野において、学部・専攻を越えた研究・教育活動や共同研究などを積極的に推進し、高い水準の研究成果を創出する。さらに、その成果を広く社会に発信・還元する。(ミッション (1) の実現に向けて)

2 広い視野をもち、複合的なバックグラウンドのもとライフサイエンスやその関連分野の将来を担える新たな人材を教育・養成する。

博士前期課程・修士課程や博士後期課程・博士課程の大学院生などに、研究科・専攻を越えたライフサイエンスの教育を実施すると共に、教育研究活動や共同研究に参加できる場を提供し、社会のニーズに対応したライフサイエンス学やその関連分野の将来を担う新たな人材を教育・養成する。あわせて、地域においてライフサイエンスの啓蒙に努め、ライフサイエンスの将来を担いうる若手人材の発掘・育成に寄与する。(ミッション (2) 及び (3) の実現に向けて)

Ⅲ 基準ごとの自己評価

基準1 ライフサイエンスイノベーションセンターの設置目的

(1) 基準ごとの分析

基準1-1 :

設置目的が明確に定められており、その内容が本学の目的に適合するものであること。

評価 : B

【基準に係る状況】

ライフセンターは、福井大学学則第1条に規定する目的及び使命を達成するために、学則第8条第2項に基づき設置されている教育研究施設である。本学の目的に沿って、ライフセンター規程において設置目的が明確に定められている。

令和3年4月には、「福大ビジョン2040」が新たに制定され、第3期中期計画から第4期中期計画への移行など、センターを取り巻く状況も大きく変化推移している。

福井大学学則 (一部抜粋)

(目的及び使命)

第1条 福井大学(以下、「本学」という。)は、学術と文化の拠点として、高い倫理観のもと、人々が健やかに暮らせるための科学と技術に関する世界的水準での教育・研究を推進し、地域、国及び国際社会に貢献し得る人材の育成と、創造的であつ地域の特徴に鑑みた教育科学研究、先端科学技術研究及び医学研究を行い、専門医療を実践することを目的とする。

(学内共同教育研究施設等)

第8条の2 本学に、教職員が共同して教育若しくは研究を行い、又は教育若しくは研究のため共用する施設及びその他の全学的業務を行う施設として、次の施設を置き、これらを総称して学内共同教育研究施設という。

福井大学ライフサイエンスイノベーションセンター規程 (一部抜粋)

(目的)

第2条 センターは、本学における高い水準での先端的生命科学研究・トランスレーショナルリサーチを複合的観点・手法で推進し、生命科学及び関連分野の研究拠点としての役割を果たすとともに、本学における教育研究活動の活性化及び学部間共同研究の推進を図り、もって、生命科学及び関連分野の将来の推進を担える人材の養成・教育を行うことを目的とする。

【分析結果とその根拠理由】

ライフセンターの設置目的はライフセンター規程第2条に明確に定められている。

さらに、ライフセンター、ライフサイエンス支援センターの2センターにて構成するライフサイエンスイノベーション推進機構が設置されており、ライフサイエンスイノベーション推進機構規程第2条に設置目的として、「本学における生命科学及び関連分野の研究・教育の充実と成果の創出及びその実用化のため、(中略)世界トップレベルの「知」の拠点として、イノベーション創出の原動力となることを目的とする。」と規定されている。この

ように、ライフセンター規程第2条に規定された設置目的は、学則で定めた本学の目的「人々が健やかに暮らせるための科学と技術に関する世界的水準での教育・研究を推進し、地域、国及び国際社会に貢献し得る人材の育成と、創造的であつ地域の特色に鑑みた教育科学研究、先端科学技術研究及び医学研究を行い」を実現するものとなっており、その内容は本学の目的に適合するものとなっている。

しかしながら、ライフセンターのミッションや設置目的等は旧生命科学複合研究教育センターのもの（平成17年度制定）を踏襲し、平成28年度に定められたものである。他方福大ビジョンの制定や第3期中期目標から第4期中期目標への移行など、センターを取り巻く状況も大きく変化推移しており、目的等の再確認・見直しが必要である。

以上のように、設置目的が明確に定められており、その内容が本学の目的に適合している。

<根拠資料>

資料1：福井大学ライフサイエンスイノベーションセンター規程

資料2：福井大学ライフサイエンスイノベーション推進機構規程

基準1-2：

設置目的が、本学構成員に周知されているとともに、地域・社会に公表されていること。

評価：B

【基準に係る状況】

ライフセンターの設置目的は、以下のような方策によって、本学構成員に周知するとともに、地域・社会に公表している。

毎年度、年度当初に、学内の教員に対してライフセンターの目的紹介などを含むセンター参加教員の募集通知を行っている。加えて、福井大学案内及び大学院工学研究科博士前期課程・博士後期課程の案内には、教育と研究をサポートするセンターとして、目的等を記載している。さらに、設置目的等も含め、ライフセンターの活動の成果・効果などを記載した「活動報告書」を毎年刊行している。

学内外への公表周知方法として、主にライフセンターのホームページが挙げられる。特に、情報発信力を向上させるよう、ホームページはより見やすくアピールできるものとしてリニューアルすることとしている（令和4年度中に運用予定）。さらに、設置目的を詳細に記載した「ライフサイエンスイノベーションセンターパンフレット」を作成し、配布している。

【分析結果とその根拠理由】

設置目的等を学内外に周知・公表するために様々な媒体を活用している。学内構成員に対しては、毎年度、センター参加教員募集の通知や活動報告書などによって設置目的等を周知している。特に、学内外への公表周知方法として有効なライフセンターのホームページについては、情報発信力の向上を図るため、より見やすくアピールできるものとして、リニューアルする予定としている。

以上のように、センターの設置目的が本学構成員に周知されているとともに、地域・社会に公表されている。

<根拠資料>

資料3：ライフサイエンスイノベーションセンターパンフレット

資料4：大学院工学研究科博士（前期・後期）課程案内2023

資料5：ライフセンター ホームページ（令和4年度中にリニューアル予定）

(<https://www.med.u-fukui.ac.jp/LIFE/seimei/>)

資料6：大学院進学予定者へのセンター説明会ポスター

基準1-3：設置目的及び活動が、本学の中期目標・計画の達成に資するものであること。

評価：B

【基準に係る状況】

ライフセンターの設置目的や活動等がその達成に資する第3期中期目標・計画（平成28～令和3年度）は以下のものである。

福井大学第3期中期目標・計画（一部抜粋）

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(3) 学生への支援に関する目標

①学生と教職員の良好な関係のもと、ステークホルダーの満足度が高い就学支援、生活支援等とともに、高い実績を持つ就職支援を推進する。

中期計画：①-1 組織的な連携体制のもと、修学面、生活面、就職面などの総合的できめ細かい学生支援体制を整備・運用し、ステークホルダーの高い満足度を維持する。このため、学生等への意見聴取の継続的実施等によって組織的に検証を行う。特に、就職先から高く評価されている就職支援体制を基盤として、積極的な進路相談や就職支援を一層推進し、概ね96%前後の高い就職率を維持する。

2 研究に関する目標

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

②科学技術の発展に寄与する学術研究や地域・社会へ貢献する実践的な研究を推進する。

中期計画：医学部・同附属病院では、地域の直面する少子高齢化や過疎化に対応するため、がん、発達障害や認知症、アレルギー・免疫疾患等の様々な疾患の克服を目指した先進的研究とともに、新たな医療技術の開発や地域医療の向上を目指した研究を推進し、学術誌への英語論文掲載数や研究成果の具体化件数等を第2期中期目標期間よりも増加させる。特に、がん、脳、アレルギー・免疫の分野では、第2期中期目標期間より20%以上増加させる。

(2) 研究実施体制等に関する目標

①研究活動の高度化および効率化のために、研究の体制および環境を整備する。

中期計画：国際的な共同研究および研究者交流を推進するとともに、新たな学問領域の創生や社会的な課題解決のために、国、大学、学部などの枠を超えた様々な連携体制を構築し、国際共著論文や国内大学・研究機関共著論文並びに学内学部間の共著論文等の数を第2期中期目標期間よりも増加させる。

3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

①地域の知の拠点として地域社会との連携を強化し、地域社会を志向した教育・研究を推進し、地域の人材養成と課題解決に寄与する。

中期計画：地域志向と主体性の育成を重視した「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」と連動させた全学的な教育カリキュラム改革を継続し、地域志向・実践系科目数を増加させるとともに、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業参加大学間の地域志向科目の相互開放と単位認定等を拡充し、社会が求める高度専門職業人の養成と、地域への定着を推進し、地域社会の持続的発展に寄与する。また、グローバルサイエンスキャンパス事業の実施やスーパーサイエンスハイスクール並びにスーパーグローバルハイスクール事業への支援、さらには、公開講座の開催や大学開放講義等への協力を通じて、地域の児童・生徒に先進的教育を提供し、次世代を担う人材創出に繋げるとともに、地域住民との協働的学習・活動を通して、地域を支える人材の創出、キャリアアップ学習および生涯学習に積極的に貢献する。

他方、ライフセンター規程第3条にライフセンターの業務を以下のように定めている。

福井大学ライフサイエンスイノベーションセンター規程（一部抜粋）

（業務）

第3条 センターは、前条の目的を達成するために、次の各号に掲げる業務を行う。

- （1）生命科学及び関連分野の先端的・応用的研究に関すること。
- （2）生命科学及び関連分野における共同研究に関すること。
- （3）生命科学及び関連分野における教育に関すること。
- （4）生命科学及び関連分野における地域貢献に関すること。
- （5）その他前条の目的を達成するために必要な業務

ライフセンターが直接その達成に資する第3期中期目標、とライフセンターの目的（規程第2条）及び業務（規程第3条）並びにライフセンターのミッションとの関連は以下のものである。なお、ライフセンターがその達成に寄与する具体的な中期計画の事項は上記の福井大学第3期中期目標・計画の中に下線部として表示した。

＜第3期中期目標とライフセンターの目的、業務、ミッションとの関連＞

第3期中期目標	目的	ミッション	業務
I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 1 研究に関する目標 （1）研究水準及び研究の成果等に関する目標 ①国際・国内研究拠点の形成を目指し、先端的画像医学研究、遠赤外領域開発・応用研究、原子力安全・危機管理研究、教師教育研究などを学内横断的かつ重点的に推進する。 ②科学技術の発展に寄与する学術研究や地域・社会へ貢献する実践的な研究を推進する。 ③社会のニーズを踏まえ、本学の特色を生かした研究成果を社会に還元する。	本学における高い水準での先端的生命科学研究・トランスレーショナルリサーチを複合的観点・手法で推進し、生命科学及び関連分野の研究拠点としての役割を果たすとともに、本学における教育研究活動の活性化及び学部官共同研	（1）ライフサイエンス分野が関連する幅広い分野の研究の高い水準での実施（先端的ライフサイエンス研究の遂行）	（1）生命科学及び関連分野の先端的・応用的研究に関すること。 （2）生命科学及び関連分野における共同研究に関すること。

	究の推進を図る		
I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 2 教育に関する目標 (3) 学生への支援に関する目標 ①学生と教職員の良好な関係のもと、ステークホルダーの満足度が高い就学支援、生活支援等とともに、高い実績を持つ就職支援を推進する。	生命科学及び関連分野の将来の推進を担える人材の養成・教育を行う	(2) ライフサイエンスを知る複合的なバックグラウンドをもつ人材の育成(大学教育)	(3) 生命科学及び関連分野における教育に関すること。
I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標 ①地域の知の拠点として地域社会との連携を強化し、地域社会を志向した教育・研究を推進し、地域の人材養成と課題解決に寄与する。		(3) ライフサイエンスの生物・理科教育への還元(社会貢献および地域での人材育成)	(4) 生命科学及び関連分野における地域貢献に関すること。

【分析結果とその根拠理由】

上記のように、ライフセンターの設置目的、業務、ミッションと第3期中期目標・計画は密接な関連がある。従って、ライフセンターの活動成果は本学の第3期中期目標の「教育に関する目標」「研究に関する目標」「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」の達成に資するものとなっている。

実際に、基準3-4に記載するように、これら中期目標・計画の達成に資する成果があがっている。

以上のように、設置目的及び活動は、本学の中期目標・計画の達成に資するものとなっている。

<根拠資料>

資料1：福井大学ライフサイエンスイノベーションセンター規程

(2) 基準1の優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- ・設置目的等のさらなる周知の一助となるよう、より見やすくアピールできるライフセンターのホームページをリニューアルする。(基準1-2)

【改善を要する点】

- ・ライフセンターのミッション、設置目的等は旧生命科学複合研究教育センターを踏襲したものであり、平成28年度に定められたものである。他方、福大ビジョンの制定、第3期

中期目標から第4期中期目標への移行など、センターを取り巻く状況も大きく変化している。そこで、改めて、ライフセンターのミッション、設置目的等の見直しが必要である。
(基準1-1)

基準2 ライフサイエンスイノベーションセンターの組織（実施体制）

（1）基準ごとの分析

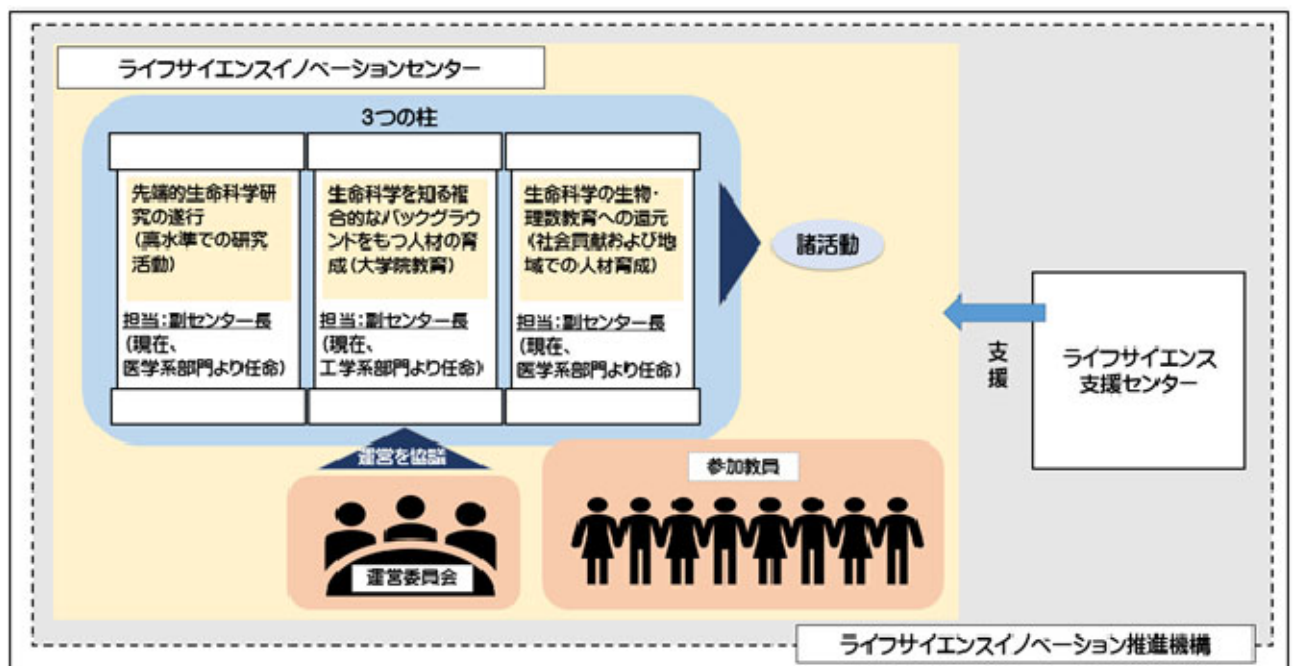
基準2-1：組織構成が、設置目的に照らして適切なものであること。

評価：B

【基準に係る状況】

ライフセンター及びライフサイエンスイノベーション機構の組織構成は以下のようである。

＜ライフセンターとライフサイエンスイノベーション機構の組織構成＞



本学では、重点研究領域である「ライフサイエンス」をさらに発展させることを目的として、「ライフサイエンスイノベーション推進機構」を設置した。本推進機構は、研究の領域が様々に広がっているライフサイエンスの分野での基礎研究や臨床研究など全体を支える支援組織として活動し、より高度な医療や健康な生活様式を提供し、国民の安心で安全な生活の実現を図るものである。

本機構は、ライフサイエンスイノベーション推進機構規程第3条で定めるように、ライフセンター及び「ライフサイエンス支援センター」から構成されている。ライフセンターでは、前述した三つのミッションを実現すべく、様々な研究、教育及び社会貢献活動を進めている。他方、ライフサイエンス支援センターでは機器・技術の支援などハード面だけでなくマンパワーを含めた研究支援体制を構築している。このように、これら二つのセンターは両輪となって、本学のライフサイエンスの発展に寄与している。特に、ライフセンターの活動に当たり、ライフサイエンス支援センターからの支援は不可欠なものとなっており、ライフサイエンス支援センター規程第2条には「センターは、福井大学ライフサイエンスイノベーション推進機構を構成するライフサイエンスイノベーションセンターが推進する重点研究を支援する」ことが明記されている

ライフセンターは、ライフセンター規程第4条及び第6条に基づき、センター長、副センター長、兼任教員、その他必要な職員により構成されている。特に、4名の副センター長はライフセンターのミッションに沿った形で「先端的生命科学研究の遂行（高水準での研究活動）（現在、医学系部門より任命）」、「生命科学を知る複合的なバックグラウンドをもつ人材の育成（大学院教育）（現在、工学系部門より任命）」及び「生命科学の生物・理科教育への還元（社会貢献および地域での人材育成）（現在、医学系部門より任命）」の3つの柱をそれぞれ受け持っている。副センター長の下、それぞれの活動を展開しており、活動報告書に示すように、十分な成果をあげている。

ライフセンターの円滑な運営を図るため、ライフセンター規程第6条により、運営委員会を設置している。運営委員会の委員には、上記3名の副センター長も含まれており、年間5回程度開催し、ライフセンターの円滑な運営に係る審議・情報共有を適宜行っている。

【分析結果とその根拠理由】

本学の重点研究領域である「ライフサイエンス」をさらに発展させるため、ライフサイエンスイノベーション推進機構を設置している。その機構を構成するライフセンターはライフサイエンス支援センターとともにその活動の両輪を担い、後者による十分な支援を受ける体制となっており、設置目的等を達成する適切な組織構成となっている。

特に、ライフセンターでは明確に定めたミッション・設置目的等の達成に資するよう、3名の副センター長が適切に配置され、その下に関係する活動が集約・実施され、十分な成果があがっている。さらに、運営委員会は、十分な成果・効果が創出できるよう、ライフセンターの円滑な運営に寄与している。このように、ライフセンターにはミッション・設置目的等の達成に資する組織構成が整備されている。

以上のように、センターの組織構成は設置目的に照らして適切なものとなっている。

<根拠資料>

資料1：福井大学ライフサイエンスイノベーションセンター規程

資料2：福井大学ライフサイエンスイノベーション推進機構規程

資料7：福井大学ライフサイエンス支援センター規程

基準2-2：設置目的を達成する上で必要な実施体制が適切に整備され、機能していること。

評価：A

【基準に係る状況】

ライフセンターのミッション・目的である「先端的生命科学研究の遂行（高水準での研究活動）（現在、医学系部門より任命）」、「生命科学を知る複合的なバックグラウンドをもつ人材の育成（大学院教育）（現在、工学系部門より任命）」及び「生命科学の生物・理科教育への還元（社会貢献および地域での人材育成）（現在、医学系部門より任命）」について、ライフセンター規程第4条に基づき、それぞれを担当する副センター長を配置している。それぞれの副センター長が中心となり、研究・地域連携推進部研究推進課、松岡キャンパス研究推進課、産学官推進本部URAなどと密接に連携し、関係する教員が高水準での研究活動、大学院教育、及び社会貢献・地域での人材育成を展開する実施体制となっている。さらに、活動の実施に当たっては、これら活動が円滑に実施できるよう、運営委員会が適宜開催され、ライフセンター規程第6条で定めた、(1)センターの研究活動に関すること、

(2)センターの教育活動に関する事、(3)センターの地域貢献活動に関する事、(4)センターの管理運営に関する事などが協議・情報共通されている。

それら活動の成果は、毎年度刊行の活動報告書に示すように、十分なものとなっている。

【分析結果とその根拠理由】

毎年度定期的に行われるライフセンター運営委員会では、研究・教育・社会貢献の各活動実施、その他センターの運営事項について協議等を継続的に行っており、これらの協議の下、ミッションで挙げた3つの柱を実現するため、各副センター長を中心として構成員および関係事務局が教職協同して、様々な取組みを実施している。このような実施組織によって、設立以来順調にセンターは運営されており、研究、教育及び社会貢献の様々な活動を展開し、活動報告に示すような、多大な成果があがっている。このように、センターの活動によって多大な成果があがっていることは実施体制が適切に整備され、機能している証左である。

以上のように、設置目的を達成する上で必要な体制が適切に整備され、機能している。

<根拠資料>

資料8：センター運営委員会議事要旨（令和2年度）

【別添】ライフサイエンスイノベーションセンター活動報告書 2020年度

【別添】ライフサイエンスイノベーションセンター活動報告書 2019年度

【別添】ライフサイエンスイノベーションセンター活動報告書 2018年度

【別添】ライフサイエンスイノベーションセンター活動報告書 2017年度

【別添】ライフサイエンスイノベーションセンター活動報告書 2016年度

基準2-3：設置目的を達成する上で必要な構成員が適切に配置されていること。

評価：A

【基準に係る状況】

ライフセンターでは、学部・研究科等の枠にとらわれることなく、ライフサイエンス及び関連する広い分野の研究や教育に関与する教員が学内より広く集結している。上記に示したように、高水準での研究活動、大学院教育、社会貢献及び地域での人材育成を3つの柱として、ライフセンターはセンター参加教員を支援し、異なるバックグラウンドを持つ教員が協働して活動を展開している。そこで、本センターには、希望する教員は誰でも参加することができ、さらに、所属する部署の長に参加の了解を得て医員や技術職員も参加できることとしている。

そこで、センター参加教員のメリットとして、

- ・本センターにて公募する医工連携等の学部間における研究を支援する競争的研究費への応募有資格者となる

- ・参加教員の研究室に所属する学生が、本センターにて公募する研究費助成への応募有資格者となる

- ・工学系4号館西棟3階の本センター実験室の使用資格を得る

- ・大学院教育、社会貢献および地域での人材育成のための取組みに参加できるなどをあげ、常時、ライフセンターへの参加を広く教職員に呼び掛けている。なお、参加

教員には、参加費の負担はない。

その結果、現在、様々な所属の教員 170 名がライフセンター参加教員として登録されており、特に、役員、教育学部、医学部・附属病院、工学研究科、学内共同教育研究施設等、など幅広い所属の教員からライフセンターは構成されている。

センター参加教員数は以下のものであり、参加教員数は維持されている。

＜参加教員数の年度推移（各年度末集計）＞

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 1 年度	令和 2 年度	令和 3 年度
164	170	165	168	171	170

さらに、ライフセンターの研究成果（研究シーズ）を積極的に社会に発信し、社会的ニーズとのマッチングをさらに図るため、産学官推進本部所属の URA 3 名、産学官連携本部（知的財産担当）特命教授にも支援いただいている。

【分析結果とその根拠理由】

ライフセンターは、学内において教員が参加を希望する場合は、本学の教員であれば自由に参加することができる柔軟な構成体制となっている。その結果、3 学部及び教育研究施設の複合的なバックグラウンドをもつ異なる所属の教員からライフセンターは構成され、社会のニーズに対応したライフサイエンスやその関連分野の研究の推進、将来の研究・教育を担える新たな人材が教育・養成できるような適切な教員の構成になっている。その結果、例えば、多くのセンター参加教員間の共同研究の推進、異なる所属の学生への研究指導など、学部などの枠を超えたライフセンターの構成体制の効果は明らかである。

このように、ライフセンターは全学から参加希望する教員（ライフセンター参加教員）から特定の学部や組織を限定することなく構築されており、ライフセンターの設置目的である“本学における教育研究活動の活性化及び学部間共同研究の推進を図り”を達成するために構成員が適切に配置されている。

以上のように、設置目的を達成する上で必要な構成員が十分適切に配置されている。

＜根拠資料＞

資料 9：センター参加教員の募集案内（令和 2 年度）

資料 10：センター参加教員間による共同研究一覧

資料 11：異なる所属の学生に対する研究指導（令和 2 年度）

（2）基準 2 の優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- ・副センター長が中心となる実施体制は適切に整備され、機能しており、活動報告書で示すような多大な成果があがっている。（基準 2 - 2）
- ・ライフセンターの構成体制は学部・研究科等の枠を超えた構成員（センター参加教員）からなっており、ミッション・設置目的達成の基盤となっている。特に、参加を希望する教員をすべてライフセンター参加教員として受け入れる体制となっており、その特徴が発揮されている。（基準 2 - 3）

【改善を要する点】

- センター運営委員会の業務に「センターの評価に関すること」が挙げられているが、自己点検評価においては、実施組織と評価組織は別に設置することが望ましい。そこで、センターの自己点検・評価を担当する「自己点検評価委員会」の設置が望ましい。(基準 2-1)
- センター参加教員数はほぼ一定数維持されているが、ライフセンターの活動をさらに展開するためには、ライフサイエンスに限らず異なる研究分野の教員の参加が望まれる。(基準：2-3)
- 研究成果による社会貢献をさらに発展させるには、ライフセンターと関係するステークホルダーの間をつなぐ役割の人材のさらなる関与が望まれる。(基準 2-3)

基準3 活動状況と成果

(1) 基準ごとの分析

基準3-1：設置目的に沿った活動が、充分に行われていること。

評価：A

【基準に係る状況】

設置目的に沿った3つの活動

- (1) 「先端的生命科学研究の遂行（高水準での研究活動）」
- (2) 「生命科学を知る複合的なバックグラウンドをもつ人材の育成（大学院教育）」
- (3) 「生命科学の生物・理科教育への還元（社会貢献および地域での人材育成）」

について、それぞれ担当する副センター長を配置し、多岐にわたる活動を実施している。

なお、これらの活動の実施については、ライフセンター規程第3条に(1)～(4)の業務として規定されている。

- (1) 生命科学及び関連分野の先端的・応用的研究に関すること。
- (2) 生命科学及び関連分野における共同研究に関すること。
- (3) 生命科学及び関連分野における教育に関すること。
- (4) 生命科学及び関連分野における地域貢献に関すること。

以下に、それぞれの活動の状況とその分析結果を記載する。

【分析結果とその根拠理由】

(1) 「高水準での研究活動」について、以下の活動を行った。

① 研究交流会

ライフセンターにおける研究活動を推進するため、センター参加教員及び大学院生による「研究交流会」を年1回開催している。研究交流会は、原則、毎年度8月下旬に行われ、令和2年度以降は新型コロナウイルス流行による感染予防の観点により、Web会議システム「Zoom」での開催となったが、いずれの年度も活発な討論が行われた。

これまでの交流会の開催状況は以下のとおりである。

< 研究交流会の開催状況 >

	開催回数	開催日	参加者数	演題数
平成28年度	第12回 ※1	平成28年8月26日	45名	27題
平成29年度	第13回	平成29年8月22日 ～8月23日	52名	30題
平成30年度	第14回	平成30年8月29日	43名	27題
平成31年度	第15回	平成31年8月27日	60名	29題
令和2年度 ※2	第16回	令和2年9月23日	45名	15題
令和3年度	第17回	令和3年9月29日	76名	26題

※1：旧生命複合科学研究教育センターから引き継ぐ交流会であり、令和28年度は、旧生命複合科学研究教育センターとトランスレーショナルリサーチ推進センターが統合しライフセンターになってからの第1回目の開催となる。

※2：令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、例年行われている学生旅費助成事業の発表

や招待講演は実施しなかった。

この研究交流会は、センター参加教員および所属大学院生同士の交流を深めるとともに、ライフサイエンス関連分野での先端的な研究の推進、臨床応用への発展を図ることを目的としており、交流会では前年度の研究費助成採択者の成果発表、当年度の研究費助成を希望する学生の研究発表、参加者から新たな見解を得るべく研究紹介を希望するセンター参加教員の発表、招待講演等を行っている。各発表については、研究の垣根を越えて質疑応答があり、全体の発表後には参加者同士で交流できる時間を設け、共同研究につながる交流の場を提供している。

交流会については、参加者からも好評を得ている。

<根拠資料>

資料 12：研究交流会の案内

資料 13：研究交流会発表プログラム一覧

資料 14：「研究交流会」に関するアンケート結果（令和 3 年度）

②公募採択型研究費助成事業、並びに研究発表会での研究成果報告

設置目的である「先端的生命科学研究の趣向（高水準での研究活動）」を達成するため、ライフセンターでは医学・生物学を含むライフサイエンスや関連する広い分野を専門とする教員が学部等の枠を超えて継続的に共同研究の実施を支援する一助として「公募採択型研究費助成事業」を実施している。

応募された研究テーマについて、センター運営委員会で審査・採択している。これまでの応募数、採択数等は以下のようである。

<公募採択型研究費助成事業の実施状況>

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	令和 2 年度	令和 3 年度
応募数	12	23	22	26	20 件	14 件
採択数	11 件	16 件	17 件	16 件	13 件	9 件
助成金 総額	550 万円	550 万円	510 万円	500 万円	500 万円	500 万円

採択された研究テーマについては、年度末までに研究成果報告書の提出とともに、センター開催の研究交流会での成果報告を義務付けている。また、採択研究課題の代表者に、研究助成に関するアンケートを行い、より効果的な研究助成の在り方の検討に資している。

研究費助成事業については、参加者からも好評を得ている。

<根拠資料>

資料 15：研究費助成事業の募集案内（令和 2 年度）

資料 16：研究費助成事業の採択一覧

資料 17：研究費助成に関するアンケート結果（令和 2 年度）

③ライフセンターの研究支援制度（ライフセンター実験室・会議室の提供）

ライフセンターの研究支援制度として、以下の 2 部屋を設置し、ライフセンター参加教員に共同研究施設として提供している。

- ・ライフセンター実験室（イノベーションプロジェクト室 31）
設置場所：文京キャンパス総合研究棟Ⅷ-1（工学系 4 号館西棟）3 階
- ・ライフセンター会議室（イノベーションプロジェクト室 33）
設置場所：文京キャンパス総合研究棟Ⅷ-1（工学系 4 号館西棟）3 階

現在、5名のセンター参加教員がライフセンター実験室を活用している。複数の研究テーマに従事している研究者たちが、同一の実験スペースを共有することを通じて、互いの理解を深め、新たな研究への展開をめざすことが期待される。加えて、本センターが主催する講習会やセミナーの会場としても利用しており、学内のみならず、高校生を含めて学外への先端研究の普及・啓蒙にも寄与している。

<根拠資料>

資料 18：ライフセンターにおける各種制度の利用について

(2)「大学院での教育活動」について、以下の活動を行った。

①大学院共通科目の開講

大学院工学研究科博士前期課程において、共通科目「生命複合科学特論Ⅰ」及び「生命複合科学特論Ⅱ」をそれぞれ前期後期の通年講義とし継続して開講している。両科目とも、医学部センター参加教員を主体とし、これに他所属のセンター参加教員も加えたオムニバス形式の講義であり、センターの特徴を活かした研究科の枠を越えたものとなっている。

両科目の受講者数は以下のものである。

<「生命複合科学特論Ⅰ」（前期）・「生命複合科学特論Ⅱ」（後期）の受講者数>

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	令和 2 年度	令和 3 年度
前期	172	192	172	150	63	100
後期	109	111	112	102	34	53
合計	281	303	284	252	97	153

(教務課工学担当より提供)

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の感染防止に向けた授業の全学的な方針により、前期・後期の講義共に、遠隔授業（リアルタイム型またはオンデマンド型）で行い、令和 3 年度は対面での講義を再開した。このため、両年度とも受講者数が減少したと思われる。

いずれの年度も、受講者アンケート結果より、好評を得ていることを確認している。

<根拠資料>

資料 19：「生命複合科学特論Ⅰ,Ⅱ」の概要（令和 2 年度）

資料 20：講義に対する学生アンケート結果（令和 2 年度）

②学生への研究支援事業（研究・成果発表のための旅費助成事業、及び研究のための研究費助成事業）

次世代のライフサイエンス研究者を養成する一助として、ライフサイエンスに関する研究を行っている学生の支援を図る目的で、学生の研究支援事業を行っている。研究支援事業として、従来から、研究及び成果発表のために必要とする旅費の支援として「学生の研究・成果発表のための旅費助成」事業を行っていたが、令和 2 年度からは、新型コロナウイルスの影響でほとんどの学会発表がオンラインになったため、「学生の研究のための研究助成事業」として研究費支援を行うものに変更した。

支援に当たっては、支援を申請した学生に「研究交流会」でその内容の公表を義務付け、それを基に、運営委員会で審議・採択している。これまでのところ、申請内容は妥当なものが多く、殆どの申請が採択されている。(令和2年度：申請件数12件、採択件数12件)

いずれの年度も、支援を受けた学生からのアンケート結果より、好評を得ていることを確認している。

<根拠資料>

資料 21：学生の研究のための研究費助成の募集案内（令和2年度）

資料 22：学生の研究のための研究費助成の採択一覧（平成28年度～令和2年度）

資料 23：研究費助成に関する学生アンケート結果（令和2年度）

③大学院生・学部生に対する研究指導支援

ライフセンターでは、学位論文の指導、実習や演習等を通して、次世代のライフサイエンス研究者育成を目指し学生の教育を行うことも重要な役割としている。その一環として、異なる所属の学生への研究指導をセンター参加教員が積極的に行うこととしている。令和2年度には10件の研究指導を行っており、医学部のライフセンター参加教員が工学研究科大学院生への研究指導を、また、工学部4年生の卒論研究指導を担当している。

<根拠資料>

資料 11：異なる所属の学生に対する研究指導（令和2年度）

(3)「社会貢献活動及び地域での人材育成」について、以下の活動を行った。

社会貢献活動について、主に、県内を中心として広くライフサイエンス分野の底上げを行うという方針の下に活動を行っている。高校生を対象として、さらには高校教員とも緊密な連携化を図っている。

①グローバルサイエンスキャンパス

本プログラムは、科学技術振興機構より「生命医科学フューチャーグローバルサイエンティスト育成プログラム—Fukui Medical High School—（以下、「GSC」という。）としてのRole Model創生—」として平成27年度から平成30年度まで採択されたものである。本プログラムは、生命医科学分野をはじめとする理数分野全体の将来を担う研究者および医学者などを目指す高い科学的能力と意思を秘めた高校生を「フューチャーグローバルサイエンティスト」として育成することを目的としている。

県内外の高校生が参加し、生命医科学分野のRole Modelプログラムと実践的英語プログラムを含めた卓越した人材を育成するインテンシブコースと、大学の研究室（ラボ）に配属され、海外研修も含め高度な研究活動を行うアドバンストコースに取組み、研究成果を発表する成果発表会も行われた。

最終年度にあたる平成30年度には県外から参加の11名を含む高校生69名がインテンシブコース3期生として参加し、研究に基づく生命医科学プログラムをFukui Medical High Schoolカリキュラムとして提供している。また、インテンシブコース受講生の中から選抜されたアドバンストコース2期生14名が、学内5つの研究室に所属し、1年半の研究活動を行った。さらに、そのうち12名のアドバンストコース受講生は、米国カンザス大学にて、ラボ研修を行った。

GSCの円滑な実施のために、ライフセンターに「GSC推進部会」、「GSC事業評価委員

会」、「選抜・評価委員会」及び「GSC企画設計ワーキング」を設置し、中でも、事業評価委員会からはライフセンターの本事業が高く評価された。

<根拠資料>

資料 24：グローバルサイエンスキャンパスプログラムの概要

資料 25：グローバルサイエンスキャンパス運営要項

資料 26：高校生に対するライフサイエンス教育の実施（福井大学ホームページより抜粋）

資料 27：G S C事業評価委員会議事要旨（評価委員会からの評価結果）

②Fukui Medical High School (FMHS) 研究体験プログラム

ライフセンターでは、次世代のライフサイエンス研究者などの育成の一助となるよう、意欲的な高校生（高校教員も含め）に対してライフサイエンスに関する、研究体験を主体とする教育プログラムを継続的に実施しており、「未来の科学者養成講座プログラム」（平成 21 年～平成 23 年）、「次世代科学者育成プログラム」（平成 24 年～平成 25 年）、「グローバルサイエンスキャンパス」（平成 27 年～平成 30 年）などを行ってきた。平成 31 年度からは、これらのプログラムの内容を引き継ぎ、新たな「Fukui Medical High School (FMHS) 研究体験プログラムー福井大学で生命医科学研究に触れるー」を開講した。

プログラムの開講状況は以下のようである。

<開講状況>

	開催日	参加者人数	プログラム内容	担当教員（代表）
平成 31 年度	令和 1 年 8 月 5 日	31 名	消化器研究入門	解剖学 教授 飯野 哲
	令和 1 年 8 月 6 日		心臓入門～心臓を知る・観る・触る～	統合生理学 教授 松岡 達
	令和 1 年 8 月 7 日		遺伝子解析入門	分子遺伝子学分野 教授 菅井 学
令和 2 年度	令和 3 年 3 月 29 日	38 名	遺伝子解析入門	分子遺伝学 教授 菅井 学
	令和 3 年 3 月 30 日		消化器研究入門	解剖学 教授 飯野 哲
令和 3 年度	令和 3 年 8 月 4 日	33 名	組織学研究入門	教授 深澤有吾
	令和 3 年 8 月 5 日		感染症と微生物 医学部の講義と実習を一日体験しよう！	ゲノム科学・微生物学 教授 定 清直

受講者は、生命医科学に関する講義・実験・研究体験・見学などにより生命医科学研究の実際に触れ、科学的な好奇心が刺激されるものとなっており、受講者からのアンケート結果では好評を得ている。

<根拠資料>

資料 26：高校生に対するライフサイエンス教育の実施（福井大学ホームページより抜粋）

資料 28：FMHSプログラムの概要

資料 29：FMSHプログラムの募集案内

資料 30：FMSHプログラム参加学生に対するアンケート結果（令和 2 年度）

③ひらめき☆ときめきサイエンス

日本学術振興会が主催する「ひらめき☆ときめきサイエンス」の実施もライフセンターの活動の一環としており、令和 3 年 12 月に松岡キャンパスにて 43 名の県内外から高校生が参加したプログラムを実施した。

今回のプログラムは、『生命医科学研究の最前線の扉を開こう！－消化管運動を担う細胞の研究－』であり、「消化管」をテーマに科研費で得られた知見を含めた講義実習を行い、参加者で話し合いを含めて進め、「消化管」を実際に自らの目や顕微鏡を使って観察し、消化管の作りを学び、消化管の研究の一端に触れるものであった。

参加した生徒からは「今回のイベントはオンラインではなく、実際にキャンパスで体験することができ、自分の将来について改めて目標を固めることができたと思うので、本当に貴重な体験になりました」などの感想をいただき、好評を得ている。

<根拠資料>

資料 26：高校生に対するライフサイエンス教育の実施（福井大学ホームページより抜粋）

④研究成果の発信

ライフセンターでは、「ライフサイエンス研究やその関連分野で、学部・学科・専攻を越えた教育研究活動や共同研究を積極的に推進し、その成果を広く社会に発信する」を目的としており、成果の広く社会への発信にも努めている。その一環として、ライフサイエンスに関連する広い分野の研究に係る研究シーズについて、学内だけでなく、外部とのマッチングも図るため、従来からライフセンターのホームページに「研究シーズ集」を掲載している。

この度、ホームページによる情報発信力を強化するため、ホームページをリニューアルし（令和 4 年度）、外部からのアクセスが増え、マッチングし社会貢献に繋がるよう、ホームページの魅せ方や、検索エンジンからホームページへの流入経路等に工夫を凝らしている。さらに、社会的ニーズとのマッチングがより効果的に行われるよう、産学官推進本部所属の URA 3 名、産学官連携本部（知的財産担当）特命教授と密接に連携をとっている。なお、社会にライフセンターの活動をホームページで公開しているため、最新の情報の更新を含め管理・運営の徹底に配慮している、

また、ライフセンターでは福井県/福井しあわせ健康産業協議会主催「医療現場ニーズ発表会」を後援し、医療現場の負担軽減に繋がる製品・サービス開発促進を支援している。

<根拠資料>

資料 5：ライフセンター ホームページ（令和 4 年度中にリニューアル予定）

[\(https://www.med.u-fukui.ac.jp/LIFE/seimei/\)](https://www.med.u-fukui.ac.jp/LIFE/seimei/)

以上に記載したように、ライフセンターの設置目的である（1）高水準での研究活動、（2）大学院での教育活動、（3）社会貢献及び地域での人材育成に沿って、多岐にわたる活動が実施されている。

以上のように、設置目的に沿った活動が、十分に行われている。

基準3-2：設置目的の達成に資する成果や効果が上がっていること。

評価：A

【基準に係る状況】

ライフセンター規程第2条に規定した本センターの設置目的として、(1) ライフサイエンス及び関連する広い分野の研究を高い水準で実施すること、(2) ライフサイエンスを知る複合的なバックグラウンドをもつ人材を育成すること、(3) ライフサイエンスの生物・理科教育への還元することをあげている。

其々の活動状況の詳細については、基準3-1に記載しているが、

(1) に関しては、ライフサイエンスに関する学内共同研究等に対し研究助成を行い、本センターでの研究に関連した学術論文の発表や学会・シンポジウム等での発表を奨励している。

(2) に関しては、工学研究科における医学部教員による生命複合科学特論の開講や、学生への研究支援事業などを行っている。さらに、大学院生の学部を越えた研究指導を行っている。

(3) に関しては、次世代のライフサイエンス研究者の育成の一助として、高校生を対象とした多岐にわたる研究体験を含む教育プログラムを実施し、地域での人材育成を行っている。

以上の活動によって、それぞれの目的に沿った成果や効果が上がっている。

【分析結果とその根拠理由】

(1) 高水準での研究活動について

ライフセンターでの研究成果として、センター参加教員間による共同研究、センター名を明記した論文、及びセンター参加教員による論文等を毎年度の活動報告書に記載している。

ライフセンターでは異なる研究分野のセンター参加教員間の共同研究の場を提供しており、令和2年度は23件の共同研究がなされ、科研費の採択にも繋がっている。

センター参加教員間の共同研究、センターからの研究費助成を受けた研究の成果を論文として公表する際、センター名を明記することを依頼しており、令和2年度は41編などセンター名を明記した論文数数は向上している。

また、令和2年度には、センター参加教員は総計310編の欧文論文を公表しており、さらにそれらの研究成果は新聞等の報道記事として多数紹介されている。これは、センター参加教員による研究成果が優れている証左である。

<根拠資料>

資料10：センター参加教員間による共同研究一覧

資料31：センター名を明記し発表した論文一覧

資料32：センター参加教員が公表した欧文論文（令和2年度）

資料33：センター参加教員の活動に関する報道（令和2年度）

(2) 大学院での教育活動について

工学研究科博士前期課程でオムニバス形式の「生命複合科学特論Ⅰ」および「生命複合科学特論Ⅱ」を毎年開講しているが、前者は100名を超え、後者についても60名を超え

る、工学研究科の科目の中でも履修者数が多い科目となっている。さらに、受講生からのアンケート結果でも好評を得ており、これら科目の開講が学生から高い評価を得ていることが明らかである。

学生への研究支援として、研究・成果発表のための旅費助成事業や研究のための研究費助成事業を実施しており、申請されたものの多くが採択されている。助成を受けた学生からのアンケート結果では、これら支援は学生にとって大変励みになったことが十分窺える。

さらに、医学部教員による工学部卒論生の指導や工学研究科大学院生の研究指導が活発に行われ、ライフサイエンスを知る複合的なバックグラウンドをもつ人材の育成に寄与している。

<根拠資料>

資料 11：異なる所属の学生に対する研究指導（令和 2 年度）

資料 19：「生命複合科学特論 I,II」の概要（令和 2 年度）

資料 20：講義に対する学生アンケート結果（令和 2 年度）

資料 21：学生の研究のための研究費助成の募集案内（令和 2 年度）

資料 22：学生の研究のための研究費助成の採択一覧（平成 28 年度～令和 2 年度）

資料 23：研究費助成に関する学生アンケート結果（令和 2 年度）

（3）社会貢献及び地域での人材育成について

次世代のライフサイエンス研究者の育成の一助となるよう、高校生を対象とした多岐にわたる研究体験を含む教育プログラムとして「グローバルサイエンスキャンパス」、「Fukui Medical High School (FMHS) 研究体験プログラム」、「ひらめき☆ときめきサイエンス」を実施した。いずれのプログラムについても、募集人員を上回る参加希望者が集まるなど関心も高く、さらに受講生からは好評を得ているなど、成果があがっている。特に、これらプログラムの参加者の多くが医学部、理学部など理工系学部に進学しており、理系人材育成の点でもセンターの活動は貢献していることが特記される。

<根拠資料>

資料 20：講義に対する学生アンケート結果（令和 2 年度）

資料 23：研究費助成に関する学生アンケート結果（令和 2 年度）

資料 30：FMHS プログラム参加学生に対するアンケート結果（令和 2 年度）

以上に記載したように、ライフセンターの設置目的に沿った三つの活動について、その達成に資する十分成果・効果があがっている。

以上のように、設置目的の達成に資する成果や効果が十分上がっている。

基準 3-3：本学の目的等の達成に資する成果・効果があがっていること。

評価：A

【基準に係る状況】

ライフセンターでは、本学の目的である「人々が健やかに暮らせるための科学と技術に関する世界的水準での教育・研究を推進し、地域、国及び国際社会に貢献し得る人材の育

成と、創造的かつ地域の特徴に鑑みた教育科学研究、先端科学技術研究及び医学研究を行い」を実現するため、「世界的水準での教育・研究の推進」、「地域、国及び国際社会に貢献し得る人材の育成」、「先端科学技術研究及び医学研究を行い」に対応する具体的な目的・ミッションをあげている。

ライフセンターでは、本学の目的に対応した目的・ミッションを達成すべく、基準3-1で記載したような様々な取組みを実施し、基準3-2で記載したようなその達成に資する十分な成果・効果をあげている。

【分析結果とその根拠理由】

(1) “世界的水準での教育・研究の推進”及び“先端科学技術研究及び医学研究を行い”について

ライフセンターでは異なる研究分野のセンター参加教員間の共同研究の場を提供しており、科研費の採択にも繋がる多くの共同研究がなされ、その成果はセンター名を明記した論文として公表され、その数も増加している。さらに、センター参加教員は多数の研究論文を公表しており、関係する報道が多いことから、質・量とも十分な研究成果をあげていることは明白である。このような成果・効果は本学の目的の達成に資するものである。

<根拠資料>

資料 10：センター参加教員間による共同研究一覧

資料 31：センター名を明記し発表した論文一覧

資料 32：センター参加教員が公表した欧文論文（令和2年度）

資料 33：センター参加教員の活動に関する報道（令和2年度）

(2) “地域、国及び国際社会に貢献し得る人材の育成”について

ライフセンターでは、人材の育成として、より具体的に「社会のニーズに対応したライフサイエンスやその関連分野の将来を担う新たな人材を教育・養成」を目的にあげており、本学大学院生および県内外の高校生を対象としている。

本学大学院生については、講義の提供として工学研究科博士前期課程におけるオムニバス形式の「生命複合科学特論 I」及び「生命複合科学特論 II」の開講、学生への研究支援として研究・成果発表のための旅費助成事業や研究のための研究費助成事業の実施、さらに異なる所属の学生に対する研究指導など、多岐にわたる支援活動を実施しており、対象となった学生からはアンケート結果等において高い評価を頂いている。

他方、高校生については、「グローバルサイエンスキャンパス」、「Fukui Medical High School (FMHS) 研究体験プログラム」、「ひらめき☆ときめきサイエンス」など多岐にわたる研究体験を含む教育プログラムを実施している。いずれのプログラムについても、募集人員を上回る参加希望者が集まるなど関心も高く、さらに受講生からはアンケート結果等で高い評価を頂いている。

このように、ライフサイエンスやその関連分野の観点から、地域、国及び国際社会に貢献し得る人材の育成の一助となっている。特に、これらプログラムの参加者の多くが医学部、理学部など理工系学部に進学しており、本学等の目的達成のみならず、社会的ニーズが高い理系人材育成の点でもセンターの活動は貢献していることが特記される。

<根拠資料>

資料 20：講義に対する学生アンケート結果（令和2年度）

資料 23：研究費助成に関する学生アンケート結果（令和2年度）

資料 30：FMSHプログラム参加学生に対するアンケート結果（令和2年度）

新たに策定された「福大ビジョン2040」では、研究のミッションとして「世界に通じる研究の推進とイノベーション創出：研究における新たな強みの創造とさらなる先鋭化（子どものころ、分子イメージング、原子力工学、遠赤外領域、繊維・マテリアル等）を推進し、イノベーションを創出する。このために、学内外の連携（医教連携、医産工連携、農工連携等）を強化し、新しい研究分野（新興イメージング開発、人間研究開発等）を開拓するとともに、社会的課題解決型研究を推進する。」をあげている。ライフセンターでは、ライフサイエンスとその関連分野において“新たな強みの創造”に繋がる多くの優れた論文を公表している。研究交流会や共同研究の場の提供など学部・研究科を越えた共同研究の推進をしており、センター参加教員間の共同研究も盛んになされており、これは“学内外の連携の開拓”に繋がるものである。特に、学部等の枠にとらわれることなく、広い分野の教員がセンターには結集しており、所属の異なる研究者同士の交流は、普段はほとんどないのが実情であったが、センターによる研究交流会の開催や共同研究の場の提供によって、お互いの交流が深まり研究に対する理解がおおいに深まり、新たな共同研究開始の端緒となることが期待される。

このようにセンターの活動・成果・効果は「福大ビジョン2040」の実現にも資するものとなっている。

<根拠資料>

資料 10：センター参加教員間による共同研究一覧

資料 31：センター名を明記し発表した論文一覧

資料 32：センター参加教員が公表した欧文論文（令和2年度）

以上に記載したように、本学の目的等に沿った三つの活動について、その達成に資する十分成果・効果があがっている。さらに、本学のビジョンの具体化に資する成果・効果もあがっている。

以上のように、本学の目的等の達成に資する成果・効果が十分あがっている。

基準3-4：本学の中期目標・計画の達成に資する成果・効果があがっていること。

評価：A

【基準に係る状況】

基準1-3に記載したように、ライフセンターの設置目的、業務、ミッションは第3期中期目標・計画と密接な関連があり、ライフセンターの活動・成果は「教育に関する目標」「研究に関する目標」「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」の達成に資するものとなっている。

具体的には、それらの中期目標に係る中期計画において、直接ライフセンターがその達成に貢献できる計画は以下のように（下線部分）である。

福井大学第3期中期目標・計画（一部抜粋）

1 教育に関する目標

(3) 学生への支援に関する目標

中期計画：組織的な連携体制のもと、①修学面、生活面、就職面などの総合的できめ細かい学生支援体制を整備・運用し、ステークホルダーの高い満足度を維持する。このため、学生等への意見聴取の継続的实施等によって組織的に 検証を行う。特に、就職先から高く評価されている就職支援体制を基盤として、積極的な進路相談や就職支援を一層推進し、概ね96%前後の高い就職率を維持する。

2 研究に関する目標

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

中期計画：医学部・同附属病院では、地域の直面する少子高齢化や過疎化に対応するため、②がん、発達障害や認知症、アレルギー・免疫疾患等の様々な疾患の克服を目指した先進的研究とともに、新たな医療技術の開発や地域医療の向上を目指した研究を推進し、学術誌への英語論文掲載数や研究成果の具体化件数等を第2期中期目標期間よりも増加させる。特に、がん、脳、アレルギー・免疫の分野では、第2期中期目標期間より20%以上増加させる。

(2) 研究実施体制等に関する目標

中期計画：国際的な共同研究および研究者交流を推進するとともに、新たな学問領域の創生や社会的な課題解決のために、③国、大学、学部などの枠を超えた様々な連携体制を構築し、国際共著論文や国内大学・研究機関共著論文並びに④学内学部間の共著論文等の数を第2期中期目標期間よりも増加させる。

3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

中期計画：地域志向と主体性の育成を重視した「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」と連動させた全学的な教育カリキュラム改革を継続し、地域志向・実践系科目数を増加させるとともに、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業参加大学間の地域志向科目の相互開放と単位認定等を拡充し、社会が求める高度専門職業人の養成と、地域への定着を推進し、地域社会の持続的発展に寄与する。また、⑤グローバルサイエンスキャンパス事業の実施やスーパーサイエンスハイスクール並びにスーパーグローバルハイスクール事業への支援、さらには、公開講座の開催や大学開放講義等への協力を通じて、⑥地域の児童・生徒に先進的教育を提供し、次世代を担う人材創出に繋げるとともに、地域住民との協働的学習・活動を通して、地域を支える人材の創出、キャリアアップ学習および生涯学習に積極的に貢献する。

以上の具体的な計画①～⑥の実施に向けて、基準3-1及び3-2で記載したように、ライフセンターでは様々な活動を実施し、それらの達成に資する成果・効果を上げている。

【分析結果とその根拠理由】

①「修学面、生活面、就職面などの総合的できめ細かい学生支援体制を整備・運用し、ステークホルダーの高い満足度を維持」について

本学大学院生について、講義の提供として工学研究科博士前期課程におけるオムニバス形式の「生命複合科学特論 I」及び「生命複合科学特論 II」を開講するとともに、学生の研究支援として研究・成果発表のための旅費助成事業や研究のための研究費助成事業の実施、さらに異なる所属の学生に対する研究指導など、学生に対する修学面での指導を実施している。アンケート結果等では、対象となった学生からは高い評価を頂いており、ステークホルダーである学生から高い満足度を得ている。

<根拠資料>

資料 20：講義に対する学生アンケート結果（令和2年度）

資料 23：研究費助成に関する学生アンケート結果（令和 2 年度）

②「がん、発達障害や認知症、アレルギー・免疫疾患等の様々な疾患の克服を目指した先進的研究とともに、新たな医療技術の開発や地域医療の向上を目指した研究を推進し、学術誌への英語論文掲載数や研究成果の具体化件数等を第 2 期中期目標期間よりも増加させる。特に、がん、脳、アレルギー・免疫の分野では、第 2 期中期目標期間より 20%以上増加」について

中期計画であげたがん、発達障害や認知症、アレルギー・免疫疾患等の様々な疾患の克服を目指した先進的研究は、ライフセンターが推進しているライフサイエンス研究にも相当し、センター参加教員は関係する多数の研究論文を公表しており、関係する報道が多いことから、質・量とも十分な研究成果をあげていることは明白である。これらの成果は、「学術誌への英語論文掲載数を第 2 期中期目標期間よりも増加させる。特に、がん、脳、アレルギー・免疫の分野では、第 2 期中期目標期間より 20%以上増加させる」とした評価指標の目標値達成の一助となっている。

<根拠資料>

資料 10：センター参加教員間による共同研究一覧

資料 31：センター名を明記し発表した論文一覧

資料 34：第 3 期における論文数の推移

③「国、大学、学部などの枠を超えた様々な連携体制を構築」について

ライフセンターは、学部等の枠にとらわれることなく、ライフサイエンス及び関連する広い分野の教員が結集し、研究交流会や共同研究の場の提供なども一助となり、センター参加教員間の共同研究は盛んに行われており、その成果として多数の学術論文の創出がなされている。このように、ライフセンターは学部の枠を超えた連携体制の構築に寄与している。

<根拠資料>

資料 10：センター参加教員間による共同研究一覧

④「学内学部間の共著論文等の数を第 2 期中期目標期間よりも増加」について

ライフサイエンスセンターでは、学部を越えた共同研究とその成果（論文等）創出を支援しており、異なる所属のセンター参加教員による共著論文が公表されている。この成果も一助となり、評価指標である学内学部間の共著論文等の数は目標値を達成した。

<根拠資料>

資料 34：第 3 期における論文数の推移

⑤「グローバルサイエンスキャンパス事業の実施」について

ライフセンターでは、平成 27 年度から平成 30 年度まで、「生命医科学フューチャーグローバルサイエンティスト育成プログラム— Fukui Medical High School—」としての Role Model 創生—」（科学技術振興機構）を実施した。本プログラムによって、生命医科学分野をはじめとする理数分野全体の将来を担う研究者および医学者などを目指す高い科学的能力と意思を秘めた高校生を「フューチャーグローバルサイエンティスト」として育成した。3 年間のプログラム実施で、延べ 180 名前後の受講者を受け入れており、受講者からも好

評を得た。特に、事業評価委員から高く評価され、これはセンターの取組みが中期計画の達成に寄与した証左である。

<根拠資料>

資料 27：G S C 事業評価委員会議事要旨（評価委員会からの評価結果）

⑥「地域の児童・生徒に先進的教育を提供し、次世代を担う人材創出」について

ライフセンターでは、地域の児童・生徒として高校生を対象として「グローバルサイエンスキャンパス」、「Fukui Medical High School (FMHS) 研究体験プログラム」、「ひらめき☆ときめきサイエンス」など多岐にわたる研究体験を含む教育プログラムを実施し、先進的教育を提供している。いずれのプログラムについても、募集人員を上回る参加希望者が集まるなど関心も高く、さらに受講生からはアンケート結果等で高い評価を頂いている。特に、受講生の多くは理工系学部に進学しており、次世代を担う人材創出に繋がる成果を上げており、中期計画の達成に資している。

<根拠資料>

資料 30：F M S H プログラム参加学生に対するアンケート結果（令和 2 年度）

以上に記載したように、第 3 期中期目標に係る中期計画において、ライフセンターが直接かかわる上記の事項について、全てその達成に寄与している

以上のように、本学の中期目標・計画の達成に資する十分な成果・効果があがっている。

基準 3 - 5 :

活動状況及びその成果・効果が、学内及び地域・社会に対して公表されていること。

評価：B

【基準に係る状況】

ライフセンターでは、年間の活動状況及びその成果・効果について、研究活動、教育活動、社会貢献活動及びセンター運営状況を詳細にまとめた「ライフサイエンスイノベーションセンター活動報告書」を毎年発行して、学内に公表している。また、センターの研究成果を公表する機会である「研究交流会」は、センター参加教員以外も参加できることとしている。

地域・社会に対しては、センターのホームページを通じて、活動状況及びその成果・効果を情報発信している。なお、情報発信を向上させるよう、ホームページのリニューアルを令和 4 年度に予定している。

センター参加教員による本センターでの研究に関連した学術論文の発表や学会・シンポジウム等での発表の際には、本センターの寄与を明記するように奨励している。実際に、センター名を明記した論文が毎年多数公表されている。さらに、センターにおける特徴ある優れた活動については、県内外のメディアにて報道されている。

センターが実施している高校生を対象としたライフサイエンス教育プログラムについて、ライフセンターホームページ、科学技術振興機構ホームページ、学術振興会ホームページを通じ、その活動は全国的に公表されている。

【分析結果とその根拠理由】

ライフセンターの毎年度実施している活動及びその成果・効果については、詳細な活動報告書として毎年公刊されており、学内に広く配付されている。特に、研究活動については、センター参加教員や学生が研究助成を受けた研究テーマの成果を掲載している。さらに、センター参加教員間によるすべて共同研究の一覧及び研究業績の一覧についても公表している。また、センター参加教員による研究業績のうち、新聞等で紹介された記事等も一覧として記載している。このように、活動報告書を通して、本センターの活動内容を広く公開している。

高校生を対象としたライフサイエンス教育プログラムについて、ライフセンターホームページ、科学技術振興機構ホームページ、学術振興会ホームページを通じ全国的に公表され、他県の高校生からもホームページを通しての参加希望を得ている。

ホームページは、ライフセンター運営委員会が中心となり構成を検討し、事務局（研究推進課）にて随時更新を行うなど、学内のみならず地域・社会に対して、センターの最新の教育・研究・社会貢献活動の各取組みと成果・効果を広く公表するツールとなっており、令和4年度にリニューアルすることとしている。

<根拠資料>

資料5：ライフセンター ホームページ（令和4年度中にリニューアル予定）

(<https://www.med.u-fukui.ac.jp/LIFE/seimei/>)

資料31：センター名を明記し発表した論文一覧

資料33：センター参加教員の活動に関する報道（令和2年度）

【別添】ライフサイエンスイノベーションセンター活動報告書 2020年度

【別添】ライフサイエンスイノベーションセンター活動報告書 2019年度

【別添】ライフサイエンスイノベーションセンター活動報告書 2018年度

【別添】ライフサイエンスイノベーションセンター活動報告書 2017年度

【別添】ライフサイエンスイノベーションセンター活動報告書 2016年度

以上のように、活動状況及びその成果・効果が、学内及び地域・社会に対して公表されている。

(2) 基準3の優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- ・ライフセンターでは、学部等の枠にとらわれることなく、ライフサイエンス及び関連する広い分野の教員を結集し、共同研究の場の提供として研究交流会を定期的で開催している。学部の異なる研究者同士の交流は、普段はほとんどないのが実情であったが、研究交流会の開催で、お互いの交流が深まり研究に対する理解がおおいに深まり、新たな共同研究開始の端緒となっている。（基準3-1, -2,）
- ・大学院生に対して学部をこえた研究指導、更には学生の研究・成果発表のための旅費助成事業を通して、学生のライフサイエンス研究に対する意欲や理解を高めており、学生からも好評を得ている。（基準基準3-1, -2）

- ・次世代のライフサイエンス研究者等の育成に繋がる教育プログラムの参加者の多くが医学部、理学部など理工系学部に進学しており、本学等の目的達成のみならず、社会的ニーズが高い理系人材育成の点でもセンターの活動は貢献している。(基準3-1, -2)
- ・本学の目的及び福大ビジョンにおいて、ライフセンターがその達成に資する直接寄与できる具体的な事項について、十分な成果・効果をあげている。(基準3-3)
- ・ライフセンターの研究成果は、第3期中期計画に係る論文数の評価指標の目標値達成の一助となっている。(基準3-4)

【改善を要する点】

- ・社会貢献活動について更なる発展のため、参加された高校生の進路状況を適切に把握するなど、組織的な調査実施を実施する必要がある。(基準3-1, -2)
- ・ライフセンターで「成果を広く社会に発信する」ことも目的としており、今後、社会からのニーズに対応できるよう、成果の情報発信を更に強化する必要がある。(基準3-5)

基準4 学生・研究者の受入れ

(1) 基準ごとの分析

基準4-1：設置目的に沿って、学生・研究者等を適切に受け入れていること。

ライフセンターでは学生・研究者等への支援を行っているが、直接学生・研究者等をライフセンターに受け入れておらず、当該基準は該当しない。

基準4-2：

設置目的に沿った履修指導・研究指導が適切に実施され、成果・効果があがっていること。

評価：A

【基準に係る状況】

センターホームページや各種案内にセンター長、事務局（研究推進課、松岡キャンパス研究推進課、教務課、松岡キャンパス学務室）等のメールアドレスを掲載し、必要に応じて関係のセンター参加教員に繋げるなど、学生・研究者等からの履修・研究に関する相談に対応できる体制を整えている。特に、工学研究科では、センター参加教員がライフサイエンス関連分野希望学生の受入教員になっており、いつでも履修・研究指導ができる体制になっている。

博士前期課程で開講している工学研究科共通科目「生命複合科学特論I及びII」は多数の教員によるオムニバス形式の科目であるが、学生は、担当主任教員を介して、講義担当教員に気軽に相談できるよう、履修指導がなされている。講義について、学生から好評を得ている。

ライフセンターでは、学生の教育を行うことも重要な役割としており、多くのセンター参加教員によって、学内の他の研究科に属する学生の研究指導が積極的になされている。令和2年度には、10件の研究指導が実施されている。

従来から、ライフセンターでは「学生の研究・成果発表のための旅費助成」、「学生の研究のための研究費助成」事業を実施し、大学院生に対する研究支援を行う体制を整えており、好評を得ている。さらに、ライフセンターの学生支援制度として、実験・研究が夜間に及ぶ場合における学生の「くずりゅう会館」宿泊施設利用やタクシー利用について、利用条件を満たす学生においてはこれらを利用できるよう配慮している。

【分析結果とその根拠理由】

ライフセンターでは、大学院生などに研究科・専攻を越えた教育活動や共同研究に参加できる場を提供し、社会のニーズに対応したライフサイエンスやその関連分野の将来を担う新たな人材を教育・育成していくことをミッションの一つとしている。それを進めるため、履修・研究指導が受けやすい体制の整備、研究科・専攻の枠を越えた大学院科目の開講や研究指導、学生の研究に対する助成事業の実施、様々な利用制度の活用などが、センターをあげてなされている。これら支援に対して学生から好評を得ており、これは指導の成果・効果が上がっている証左である。

以上のように、十分に、設置目的に沿った履修指導・研究指導が適切に実施され、成果・効果があがっている。

<根拠資料>

資料 11：異なる所属の学生に対する研究指導（令和 2 年度）

資料 18：ライフセンターにおける各種制度の利用について

資料 20：講義に対する学生アンケート結果（令和 2 年度）

資料 21：学生の研究のための研究費助成の募集案内（令和 2 年度）

資料 22：学生の研究のための研究費助成の採択一覧

資料 23：研究費助成に関する学生アンケート結果（令和 2 年度）

(2) 基準 4 の優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- ・学生への支援は多岐にわたり行われており、学生の教育、研究活動に対するサポート体制は十分に整備され、好評を得ている。（基準 4-2）

【改善を要する点】

該当無し

基準5 施設・設備

(1) 基準ごとの分析

基準5-1：活動する上で必要な施設・設備が整備され、有効に活用されていること。

評価：A

【基準に係る状況】

ライフセンターの研究拠点として、従来から文京キャンパス総合研究棟Ⅷ（工学系4号館）3階の共用研究スペース（ライフセンター実験室）と会議室（ライフセンター会議室）を有している。共有機器として、前者には冷凍冷蔵庫、オーハウス電子天秤、試験管ミキサー、パーソナルミニ遠心機、卓上型振とう恒温槽など、後者には液晶プロジェクター、デジタルビデオカメラ、80型スクリーンなどを備えており、常時、更新・新規導入に努めている。

毎年度、これら施設の利用について、センター参加教員に案内している。現在、ライフセンター実験室は工学研究科教員5名がそれぞれの研究テーマを持ち利用しており、利用者一人当たり年間3万円を負担いただいている。ライフセンター会議室は、その他のライフセンター参加教員が社会貢献活動、セミナー、討論会等に利用されている。

なお、センター参加教員は、ライフセンターを支援するライフサイエンス支援センターの整備している機器等を活用している。

【分析結果とその根拠理由】

ライフセンターは、研究拠点として、文京キャンパス総合研究棟Ⅷ（工学系4号館）3階のライフセンター実験室及びライフセンター会議室を有している。これらの貸与については、ライフセンター運営委員会及び副センター長（工学系部門沖教授）を中心に、関係教員の意見を集約したうえで検討を行い、使用を許可している。現在、5名のセンター参加教員が有効に使用している。特に、複数の研究テーマに従事している研究者たちが、同一の実験スペースを共有することを通じて、互いの理解を深め、新たな研究への展開が行われることが期待できる。

その他、これら施設は本センターが主催する講習会やセミナーの会場としても利用され、学内外への先端研究の普及／啓蒙活動が行われなど、有効に活用されている。

以上のように、十分に、活動する上で必要な施設・設備が整備され、有効に活用されている。

<根拠資料>

資料18：ライフセンターにおける各種制度の利用について

(2) 基準5の優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- ・ライフセンターの研究拠点である総合研究棟Ⅷ3階の共用研究スペース・会議室が有効に活用されている。特に、複数の研究テーマに従事している研究者たちが同一の実験スペースを共有することを通じて、互いの理解を深め、新たな研究への展開が行われるこ

とが期待できるなど、センターの設置目的に沿った活用がなされている。(基準5-1)

【改善を要する点】

- ・ライフセンターの研究拠点の機能をさらに向上させるためには、センター実験室に備えた共用実験機器等の更新や新規導入のための経費が必要である。(基準5-1)

基準6 財 務

(1) 基準ごとの分析

基準6-1:

設置目的に沿った活動を適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有していること。

評価: B

【基準に係る状況】

ライフセンターは、学内配分予算である特定事項経費及び学長裁量経費（研究推進経費）による経費により運営されている。加えて、参加教員は学内外の公募採択事業に積極的に申請し、経費を確保し活動を行っている。

各年度の収支状況は、運営委員会で審議、承認されている。

【分析結果とその根拠理由】

ライフセンターでは、特定事項経費（平成28年度2,633千円、平成29年度2,604千円、平成30年度2,575千円、平成31年度2,369千円、令和2年度2,343千円、令和3年度2,317千円）及び学長裁量経費（研究推進経費）（平成28年度4,000千円、平成29年度4,000千円、平成30年度3,400千円、平成31年度3,700千円、令和2年度3,700千円、令和3年度3,700千円）を基本的な財政基盤として、毎年度、設置目的に沿った活動を実施している。予算規模に増減はあるものの、ほぼ一定額が維持されている。各年度の収支状況は、運営委員会の議題として審議されるなど、透明性を担保している。

センター参加教員は個別活動毎に学内外の公募採択事業に積極的に申請し、例えば、科学技術振興機構より平成27年度から平成30年度にかけて『生命医科学フューチャーグローバルサイエンティスト育成プログラム—“Fukui Medical High School”としてのRole Model 育成—』プログラムが、他にも令和2年度には日本学術振興会による「ひらめき☆ときめきサイエンス」事業が採択された。

このような財政基盤によって、活動報告書に記載するような、設置目的に沿った十分な成果・効果を上げており、センターの活動を適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有していることが明らかである。

以上のように、設置目的に沿った活動を適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有している。

<根拠資料>

資料35: ライフセンター決算一覧

資料36: 第5回運営委員会議事要旨（令和2年度）

基準6-2:

設置目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、履行されていること。

評価: B

【基準に係る状況】

適正な収支に係る計画等の予算について、毎年度、予算案を策定しライフセンター運営委員会において審議のうえ、承認を得ている。なお、予算案の策定に際しては、前年度の実績を基に、ライフセンターの活動の3本柱である研究、教育、社会貢献活動に対して適正なバランスの取れた予算となるよう配慮し、それぞれの分野ごとに予算を立てている。

承認された予算案に基づき、年間を通じて、設置目的等の達成に資する様々な活動を履行している。その履行状況は、基準6-1に示すように、決算として、運営委員会の承認を得ている。

【分析結果とその根拠理由】

前年度実績を基に、ライフセンターの設置目的の達成を目指す活動の3本柱である研究、教育、社会貢献活動に対して適正なバランスの取れた予算を配分するよう配慮した予算案を作成し、運営委員会の承認を得ている。

さらに、予算案に沿って適切に履行されたかなど、その履行状況は決算として運営委員会で審議され、承認を得ている。このように、策定された適切な収支に係る計画等を有効に執行しており、設置目的の達成に資する十分な成果を得ていることを確認している。

以上のように、設置目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、履行されている。

<根拠資料>

資料 35：ライフセンター決算一覧

資料 36：第5回運営委員会議事要旨（令和2年度）

資料 37：ライフセンター予算（案）一覧

資料 38：第1回運営委員会議事要旨（令和2年度）

（2）基準6の優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

該当無し

【改善を要する点】

- ・ライフセンターでは、設置目的に沿った活動を適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しており、毎年度一定額が維持されているが、センターのミッションの実現に向けて、研究助成や人材育成などをさらに展開するためには財政基盤の拡大が不可欠である。（基準6-1）

基準 7 管理運営

(1) 基準ごとの分析

基準 7-1 :

設置目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備され、機能していること。

評価 : B

【基準に係る状況】

ライフセンターの管理運営について、センター規程第 4 条に規定するように、センター長、副センター長、兼任教員、及びその他必要な職員が配置され、センター規程第 5 条にその職務が定められている。センター長はセンターの管理運営をつかさどり、副センター長はそれを補佐することとなっている。さらに、ライフセンターの目的を達成するための業務を同規程第 3 条に示している。

センター規程第 6 条の規定に基づき設置された運営委員会は、センター長、副センター長、兼任教員、各部門から推薦された教員から構成され、センター規程第 6 条 2 項に定められた事項に基づき、ライフセンターの円滑な運営を図るための計画立案、審議を行っており、適切に運営がなされている。

ライフセンターを支える主な事務組織である研究・地域連携推進部研究推進課を中心として、松岡キャンパス研究推進課、必要に応じ教務課、松岡キャンパス学務室の協力を得て、事務処理が行われている。

なお、毎年のセンター運営状況は、活動報告書に「センター運営状況報告」として取り纏め、報告している。

【分析結果とその根拠理由】

ライフセンターの設置目的、ミッションを達成するために、センターの業務、構成員の職務をセンター規程第 3 条、同第 5 条にそれぞれ定めている。

ライフセンターでは、運営委員会が中心となり、研究・地域連携推進部研究推進課などと密接に連携し、設置目的、ミッションを達成するよう、管理運営を進めている。毎年公表している活動報告書に示すように、多彩な活動がなされ十分成果があがっていることを鑑みると、センターの管理運営体制と事務組織は概ね適切に機能し、運営されていることが明らかである。

なお、センターの管理運営状況は、毎年発刊する「活動報告書」で広く周知している。

以上のように、設置目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備され、機能している。

<根拠資料>

資料 1 : 福井大学ライフサイエンスイノベーションセンター規程

資料 39 : 活動状況に関する調査 (令和 2 年度)

基準 7-2 :

管理運営に関する方針が明確に定められ、それらに基づく規定が整備され、各構成員の責務と権限が明確に示されていること。

評価：B

【基準に係る状況】

ライフセンターの円滑な管理運営を図るため、センターの重要事項の審議・検討等を行う「運営委員会」を設置することを管理運営の基本方針としており、それを規定したライフサイエンスイノベーションセンター規程を整備している。同規程第6条第2項には運営委員会における審議事項が定められており、それは設置目的・ミッション等の達成に資するものとなっている。

同規程第5条には、(1)センター長は、センターの業務を掌理する、(2)副センター長は、センター長を補佐しセンター長に事故あるときは、その職務を代行する、(3)兼任教員は、センターの方針に従い生命科学及び関連分野に関する研究と教育を行う、(4)その他の職員は、センターの業務に従事する、としてそれぞれの構成員の職務を定めている。

【分析結果とその根拠理由】

ライフセンターの円滑な管理運営にあたり、センターの重要事項の審議・検討等を行う運営委員会を設置し、そこでセンターの管理運営に関する審議等を行うことを基本方針としており、ライフセンター規程にその旨定めている。

さらに、ライフセンターを構成するそれぞれの構成員の役割を同規程に定めている。センター長及び副センター長のもと、ライフセンター運営委員会で承認された年間の活動計画に沿いながら、各構成員が責任を持って活動を行っている。

以上のように、管理運営に関する方針が明確に定められ、それらに基づく規定が整備され、各構成員の責務と権限が明確に示されている。

<根拠資料>

資料1：福井大学ライフサイエンスイノベーションセンター規程

基準7-3：

活動の状況やその成果・効果が組織的に把握され、適切な形で管理運営に反映されていること。

評価：A

【基準に係る状況】

ライフセンターでは、センターの管理運営の司令塔である運営委員会を適宜開催し、以下の委員会（令和2年度）における協議・報告事項に示すように、活動の状況やその成果・効果を組織的に把握している。委員会では、センター規程第6条第2項に定めた事項について協議や審議を行い、報告の時間も設けており、センターの活動状況や成果は委員全体が把握している。その上で、委員会では今後の活動について協議し、管理運営に反映している。

運営委員会における審議事項（令和2年度）

<第1回目>

（協議事項）

1. 令和2年度運営委員会委員について
 2. 令和2年度予算(案)について
 3. 研究活動について
 - 4 教育活動について
 5. ライフセンターにおける各種制度の利用案内について
 6. ライフセンター参加教員の募集について
 7. ライフサイエンス研究に係るシーズ集の作成更新について
- (報告事項)
1. 生命医科学研究プログラムの実施計画について
 2. 「ひらめき☆ときめきサイエンス」の実施について
 3. 生命複合科学特論Ⅰの授業について

<第2回目>

(協議事項)

1. 令和2年度ライフセンター「公募採択型研究費」の審査について
2. 助成金のグラント番号について
3. 令和2年度「研究交流会」での発表方法について

(報告事項)

1. 令和2年度「研究交流会」プログラム(案)について

<第3回目>

(協議事項)

1. 令和2年度ライフセンター「学生の研究のための研究費助成」の審査について

<第4回目>

(報告事項)

1. ライフセンターの今後の取り組み案について

(報告事項)

1. 令和2年度「FMHS 生命医科学研究プログラム」について

<第5回目>

(協議事項)

1. 令和3年度運営委員会委員(案)について
2. 令和3年度ライフセンター活動スケジュール(案)について
3. 令和2年度決算(案)について
4. 令和2年度活動状況に関する調査について
5. 令和3年度生命複合科学特論の担当日程(案)について

(報告事項)

1. 令和2年度助成事業に係る研究成果報告書とアンケートの提出依頼について
2. 令和2年度学生の研究のための研究費助成に係る研究成果報告書とアンケートの提出依頼について
3. 令和2年度生命複合科学特論履修出席状況について
4. 令和2年度 FMHS 研究体験プログラムの状況について

さらに、センターの活動状況やその成果・効果の組織的な把握の一環として、毎年度、センターの活動の状況やその成果・効果をまとめた詳細な「活動報告書」を作成・公表し、

常に構成員に周知している。

また、センターの活動・成果等は、中期計画の達成に資するものであり、その進捗は IR 室によって検証され、フィードバックされている。

【分析結果とその根拠理由】

センター運営委員会では、センターの活動の状況やその成果・効果について審議・報告がなされ、委員全体がそれらを把握している。それらに基づき、今後のセンターの活動が審議されており、管理運営に反映されている。

また、センターの活動の状況やその成果・効果について、毎年度詳細な活動報告書を作成・公表しており、活動の状況やその成果・効果の組織的な把握の一環としている。

以上のように、活動の状況やその成果・効果が組織的に把握され、適切な形で管理運営に反映されている。

<根拠資料>

資料 1：福井大学ライフサイエンスイノベーションセンター規程

資料 8：センター運営委員会議事要旨（令和 2 年度）

【別添】ライフサイエンスイノベーションセンター活動報告書 2020 年度

【別添】ライフサイエンスイノベーションセンター活動報告書 2019 年度

【別添】ライフサイエンスイノベーションセンター活動報告書 2018 年度

【別添】ライフサイエンスイノベーションセンター活動報告書 2017 年度

【別添】ライフサイエンスイノベーションセンター活動報告書 2016 年度

(2) 基準 7 の優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- ・センターの活動の状況やその成果・効果をまとめた、詳細な「活動報告書」を毎年度作成・公表している。（基準 7－3）

【改善を要する点】

該当無し

IV 根拠資料集

【 資料集 】	頁
資料 1 : 福井大学ライフサイエンスイノベーションセンター規程	・・・ S 1
資料 2 : 福井大学ライフサイエンスイノベーション推進機構規程	・・・ S 3
資料 3 : ライフサイエンスイノベーションセンターパンフレット	・・・ S 5
資料 4 : 大学院工学研究科博士（前期・後期）課程案内 2 0 2 3	・・・ S 7
資料 5 : ライフセンター ホームページ（令和 4 年度中にリニューアル予定） (https://www.med.u-fukui.ac.jp/LIFE/seimei/)	・・・ S11
資料 6 : 大学院進学予定者へのセンター説明会ポスター	・・・ S13
資料 7 : 福井大学ライフサイエンス支援センター規程	・・・ S14
資料 8 : センター運営委員会議事要旨（令和 2 年度）*	・・・ S16
資料 9 : センター参加教員の募集案内（令和 2 年度）*	・・・ S28
資料 10 : センター参加教員間による共同研究一覧 *	・・・ S30
資料 11 : 異なる所属の学生に対する研究指導（令和 2 年度）*	・・・ S42
資料 12 : 研究交流会の案内 *	・・・ S44
資料 13 : 研究交流会発表プログラム一覧 *	・・・ S46
資料 14 : 「研究交流会」に関するアンケート結果（令和 3 年度）*	・・・ S51
資料 15 : 研究費助成事業の募集案内（令和 2 年度）*	・・・ S58
資料 16 : 研究費助成事業の採択一覧 *	・・・ S61
資料 17 : 研究費助成に関するアンケート結果（令和 2 年度）*	・・・ S67
資料 18 : ライフセンターにおける各種制度の利用について	・・・ S72
資料 19 : 「生命複合科学特論 I, II」の概要（令和 2 年度）*	・・・ S81
資料 20 : 講義に対する学生アンケート結果（令和 2 年度）*	・・・ S83
資料 21 : 学生の研究のための研究費助成の募集案内（令和 2 年度）*	・・・ S100
資料 22 : 学生の研究のための研究費助成の採択一覧 *・・・ S104	
資料 23 : 研究費助成に関する学生アンケート結果（令和 2 年度）*	・・・ S109
資料 24 : グローバルサイエンスキャンパスプログラムの概要 *	・・・ S111
資料 25 : グローバルサイエンスキャンパス運営要項 *・・・ S114	
資料 26 : 高校生に対するライフサイエンス教育の実施（福井大学ホームページより抜粋）	・・・ S117
資料 27 : G S C 事業評価委員会議事要旨（評価委員会からの評価結果）	・・・ S120
資料 28 : F M S H プログラムの概要 *	・・・ S128
資料 29 : F M S H プログラムの募集案内 *	・・・ S129
資料 30 : F M S H プログラム参加学生に対するアンケート結果（令和 2 年度）*	・・・ S130
資料 31 : センター名を明記し発表した論文一覧 *	・・・ S143
資料 32 : センター参加教員が公表した欧文論文（令和 2 年度）*	・・・ S157
資料 33 : センター参加教員の活動に関する報道（令和 2 年度）*	・・・ S191
資料 34 : 第 3 期における論文数の推移	・・・ S202
資料 35 : ライフセンター決算一覧	・・・ S204
資料 36 : 第 5 回運営委員会議事要旨（令和 2 年度）	・・・ S209

資料 37：ライフセンター予算（案）一覧	・・・	S211
資料 38：第 1 回運営委員会議事要旨（令和 2 年度）	・・・	S217
資料 39：活動状況に関する調査（令和 2 年度）	・・・	S221

* 活動報告書より抜粋